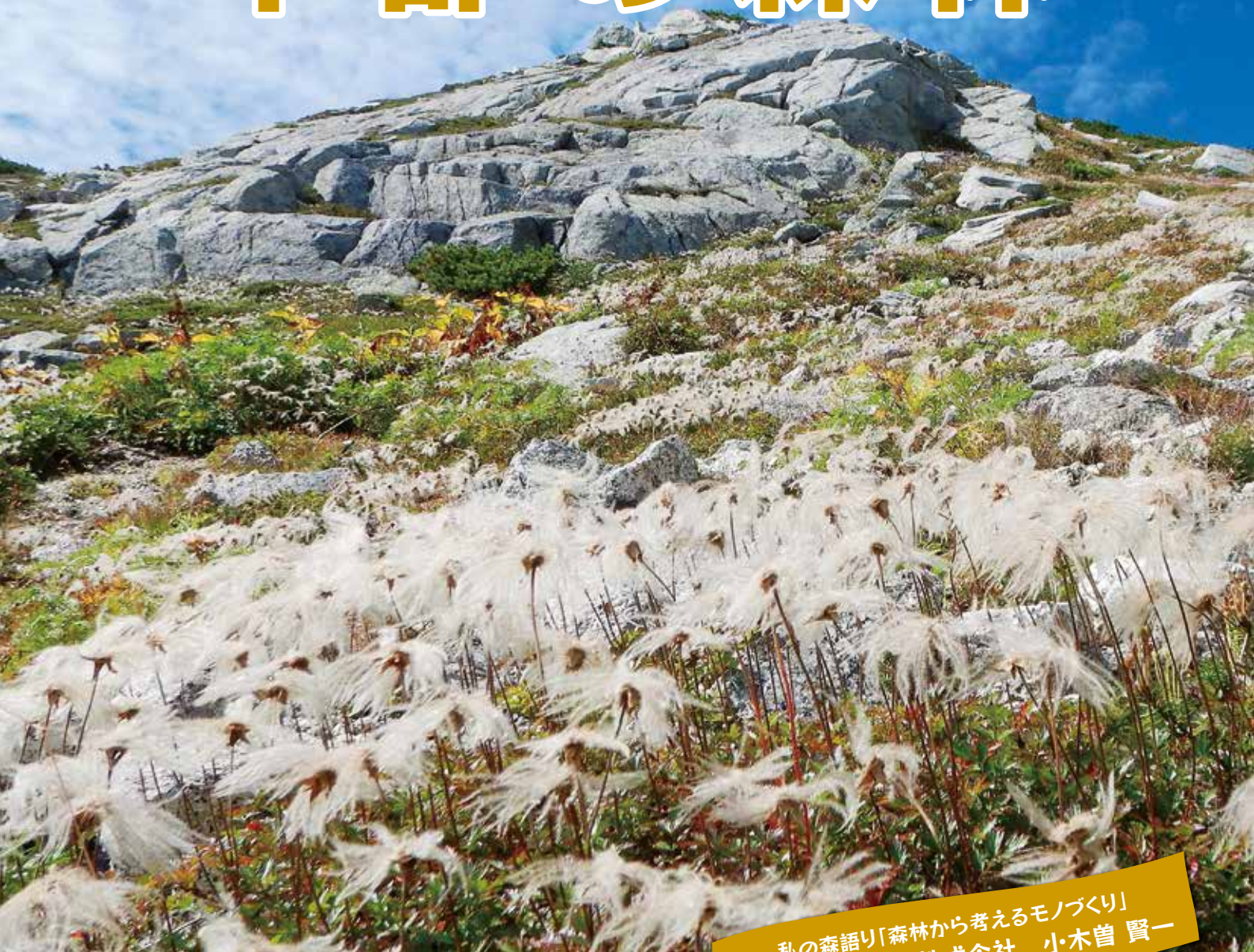


広報

# もり 中部の森林



写真：「千畳敷から極楽平へ向かう途中の青空とチングルマの綿毛」  
(南信署(中央アルプスグリーン・サポート・スタッフ)提供)

## 特集

- ・小林式誘引捕獲法の現地検討会を管内3箇所で開催！

## 各地からの便り

- ・赤沢自然休養林を活用した信州大学の演習に参加
- ・広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会を開催 (ほか)

## シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

私の森語り「森林から考えるモノづくり」  
オークヴィレッジ株式会社 小木曾 賢一



2023/No.234



林野庁中部森林管理局



7月26日～27日 南信署東俣国有林において開催された現地検討会の様子（参加人数：70名）



8月29日 愛知所段戸国有林にて（参加人数：60名）



8月28日 岐阜署七宗国有林にて（参加人数：64名）

**小林式誘引捕獲法の  
現地検討会を  
管内二箇所で開催！**

**【技術普及課】**

近年、ニホンジカ（以下「シカ」）による樹木の食害や剥皮被害は、確実な再造林や適切な森林整備の実施に大きな支障を及ぼしています。また、こうした被害の拡大によって林内の下層植生が消失し、土壌が流出するなど、森林の有する公益的機能の発揮に影響を与えておそれがあります。

中部森林管理局では、その対策として、防護柵の設置やくくりわなによるシカ捕獲に取り組んでいます。特にくくりわなは「けものみち」を選んで設置する必要があります。また、経験と技術が高く求められます。

そこで、初心者でも簡単に効率よく捕獲できる「小林式誘引捕獲法（以下「小林式」）」を考案し、これを普及した功績により昨年度「人事院総裁賞」を受賞した、林野庁職員の小林正典氏を講師に迎え、南信署、岐阜署、愛知所の国

有林内において現地検討会を開催しました。

延べ四日間の検討会には、森林管理署をはじめ、各県や市町村の職員、地元猟友会などから約二百名が参加し、設置方法だけでなく、設置後の状況確認など、丁寧な指導を受けました。なお、小林氏は小林氏が近畿中国森林管理局に勤務していた際に考案したもので、同局で作成された動画で紹介させていただきます。



**●小林式の特徴**

シカが餌を食べようとする際、前足を餌の近く（口元）に置くことや石を踏まない習性を利用したもので、確実にわなを踏み込むよう、わなの外周に石を置き、その外縁部に餌を撒くことが特徴です。

餌で誘引することから、初心者でも簡単に設置できるほか、設置後の見回り負担や捕獲個体の運搬のことを考慮して、車でアクセスしやすい場所に限定して設置することも可能です。

●小林式設置方法のポイント



ワイヤーの部分なども枝葉でしっかりと隠す



石の周囲に餌を撒く（見回りの際に必要に応じて補充等を行う）



踏み板とバネの上にサラサラの土をかけ金具等を隠す



事前に「米ぬか」や「ハイキューブ」などで餌付けし、餌がよく食べられている場所にわなを設置する



石が固定されているか、わなの金属部分が見えていないか、踏み板の上に大きな枝葉や餌が乗っていないかなど、最終確認を行う



石の平らな面をわな側に密着させ、地面から指2本ほどの高さになるようにわなの外周に埋め込む

●小林式の効果について

捕獲効率は、シカの生息密度や周囲の環境の影響を受けるため、従来の方法と単純に比較することは困難ですが、奈良県の実証試験では、従来と比較して、捕獲効率が五倍に増加した事例などがあります。

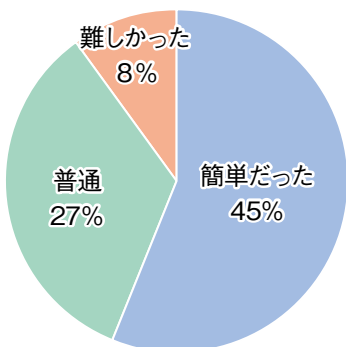
この度、南信署で行った現地検討会では、一日目に約三十基のわなを設置し、翌日には四頭捕獲することができました。



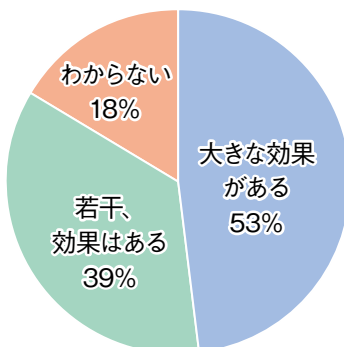
捕獲されたメスジカ

当局では、今後とも森林被害等の低減に向けて、地域の自治体や関係者と連携し、捕獲と防護の両面で対策に取り組んでまいります。

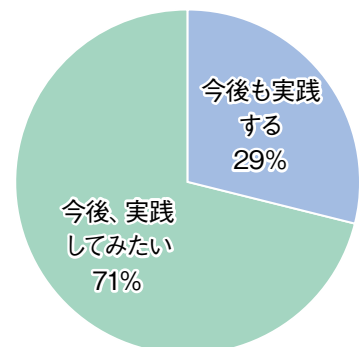
最後に、現地検討会参加者の皆様にアンケートを実施しましたので、その一部（わな捕獲経験者分）をご紹介します。



「小林式誘引捕獲法」は簡単でしたか？



「小林式誘引捕獲法」は通常のと比較して効果があると思いますか？



「小林式誘引捕獲法」を実践してみたいと思いますか？

**赤沢自然休養林を活用した  
信州大学の演習に参加**

【木曾森林ふれあい推進センター・木曾森林管理署】

七月二十一日、木曾郡上松町の赤沢自然休養林（以下、「休養林」）において、信州大学農学部 of 森林生態学演習が行われ、当センターと木曾署の職員が講師として参加しました。

人材や資源の活用を図りながら、人材育成を促進することなどを目的とした「中部森林管理局と信州大学農学部との連携と協力に関する協定」を締結しており、様々な活動をしています。今回は、その一環として国有林のフィールドを活用した演習が行われたもので、学生三十一名が出席しました。最初に休養林の概要と木曾ヒノキ林の成り立ち、休養林がエリアの一部に含まれている「生物多様性復元地域（愛称：木曾悠久の森）」の取組などを説明し、その後、班に分かれて休養林内に入り、森林構造や木曾ヒノキ等の天然更新プロセス、立地環境について観察



休養林内の赤沢森林交流センターにて説明を受ける大学生

してもらい、学生主体のグループ・ディスカッションを行いました。学生からは、「木曾ヒノキ林といても、サワラや広葉樹も生育することが観察できた」「天然更新している樹種はヒノキよりアスナロが多いことに興味を持った」といった感想が聞かれました。

**油圧式集材機・架線式グラップル  
の現地見学会へ参加**

【資源活用課】

七月二十七日、岐阜県郡上市の民有林において、林野庁補助事業である「最新式集材機と ICT ハーベスタ等を核とした主伐・再造林システム実証・普及事業」(油圧式集材機・架線式グラップルシステム)の現地見学会が開催され、名古屋造林素材生産事業協会会員の方々を中心に約三十名が参加しました。

はじめに、現地に設置された油圧式集材機等のメーカー担当者から機能や特性、実際に使用する際の注意点などについて説明を受けました。この最新型の集材機の特徴は、木材の荷掛けや荷下ろしが遠隔操作により行えることで、従来型よりも安全に、かつ少人数で作業を行うことが可能となります。

特に架線式グラップルは、リモコン操作により機械が伐倒木を掴んで運ぶため、人が伐倒木に触れずに集材できることから参加者の



架線式グラップルで伐倒木を運搬する様子

関心を集めていました。説明後にはデモストレーションが行われ、山の斜面から伐倒木を吊り上げ、搬出して荷下ろしをするまでの一連の作業を見学しました。最後に行われた質疑応答では、「架線を張るのにどのくらいの期間が必要か」「何人体制で作業を行っているのか」など、生産性の向上や現場の実行体制などについての質問が多く出されました。今回の見学会を通じて、さらなる民有林との連携強化を図るとともに、林業労働の安全性の向上や省力化、生産性の向上に取り組んでいきたいと考えています。

南アルプス  
外来植物除去活動を実施

【南信森林管理署】

七月二十八日、南アルプス食害対策協議会が主催する外来植物除去活動を伊那市長谷地区の南アルプス林道沿いで実施しました。

今回は、夏休みを利用した体験学習として、長谷小学校の児童三十四名も参加し、同協議会の構成機関である伊那市、信州大学農学部、環境省、当署の職員など、総勢五十四名で行いました。

除去作業に先立ち、標高一、七〇〇メートル付近の歌宿にて、伊那市職員より除去すべき植物について説明を受け、その後、南アルプス林道の玄関口である戸台大橋へ向けて、林道沿いの外来植物を除去しながら下山しました。

最も多く除去した「ヒメジョオン」は、花が咲いていないものもあり、特定に苦慮しましたが、特徴が似ている在来植物の「ノコンギク」との違いをしっかりと確認し、慎重に除去していきました。また、植物の名前や対岸の景勝地などに



ついて学ぶ児童たちの姿も見られ、活気ある有意義な一日となりました。

約十年間にわたる毎年の除去活動により、以前より外来植物の数は少なく、背丈も小さいものがほとんどでしたが、完全に除去することの難しさを実感しました。

活動中、貴重な在来の蝶である「アサギマダラ」も確認され、これらの保護や南アルプスの景観を守るためにも、今後とも関係者と連携し、外来植物除去活動に取り組んでまいります。



外来植物の説明を聞く長谷小学校の児童

高瀬渓谷  
フェスティバル2023に参加

【中信森林管理署】

七月二十九日、大町市にある大町ダム管理所において、高瀬渓谷フェスティバルが開催されました。

毎年、国土交通省と長野県が制定した「森と湖に親しむ旬間」に行われるイベントで、当署は「ネイチャークラフト」と称して、小さな木工作品作りのブースを出展しました。

参加者は自由な発想で、森の中にある木の実などを使って、木製コースターの上にウサギやネズミといった動物を作り出すなど、様々な作品づくりに取り組み、完成した作品を手に「かわいい」「たのしかった」と満足そうな笑顔が浮かべていました。

松ぼっくりのような身近にあるものから、トチの実など普段見かけないものまで、いろいろな森の恵みを使ったものづくりは、既製品に囲まれた日常生活から少し離れてみる良い機会になったようでした。



お気に入りの木の実などで作品づくりを楽しむ親子



参加者のオリジナル作品例

夏期職場体験プログラム  
(インターンシップ)を開催

【木曽森林管理署】

七月三十一日から八月三日まで、当署管内の国有林及び民間の木材市場等において、長野県林業大学の学生五名を対象にした職場体験プログラムを開催しました。

盛夏を迎えた中で熱中症や雷雨を気にしながらの実習でしたが、当署ならではの奥深い天然木曾ヒノキ林などの森林、太陽の照り返しが強い土場、事務室など、職員が勤務する多様な職場環境も見てもらいながら、林野行政や当署の特徴、関連する事業に対する理解を深めてもらうことを目的として実施しました。

体験プログラムは、森林官の仕事（木材供給の丸太生産・立木の量を調べる収穫調査）、山見（森林の踏査）、丸太の仕分けと販売、赤沢自然休養林での体験林業、林道や山腹崩壊地での復旧調査、若手職員との交流など幅広い内容でした。



国有林の図面を見ながら場所を確認する学生たち

学生からは、「事務仕事が多いイメージをもっていましたが、実際は職員の足で各種調査などを行っていることが分かった」「森林整備は下見をして入念な計画を立ててから行うなど、作業の安全は重要」「思っていた以上にホワイトな職場」などの感想が寄せられました。限られた時間でしたが、今回の体験で見せてくれた実直な姿から、将来の林業・土木関係への就業に結び付くことを期待しています。

広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会を開催

【計画課、北信森林管理署】

八月二十二日、下高井郡木島平村のカヤの平高原周辺及び上水内郡信濃町の黒姫山国有林において、「広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会」を開催しました。

本検討会は、中部森林管理局管内の広葉樹二次林における施業の必要性、施業を必要とする場合の留意すべき事項や伐採木利用の可能性等について、有識者の意見を伺い、適切な取扱いを検討すべく、本年度の新たな取組として設置したもので、四月に第一回の検討会を会議形式にて行いました。

第二回となる今回は、カラマツ人工林内に広葉樹が侵入し、針広混交林となっている林分や、過去の薪炭利用等により伐採したミズナラが萌芽更新したと思われる天然生林など、北信署管内の特徴的な広葉樹二次林の林況を確認し、森林の公益的機能の発揮、広葉樹材の活用など多岐にわたる観点か



様々なタイプの広葉樹二次林を確認する様子  
(写真は伐採後に天然更新した林分)

ら、施業の要否や方法等について検討を行いました。委員の方々からは、「それぞれタイプの異なる多様な広葉樹林を見ることができて大変有意義だった」「施業により得られたデータの蓄積と共有を期待する」「施業にあたっては、生物多様性の観点も十分考慮して行うべき」など、様々なご意見をいただきました。今後、他の国有林においても現地検討を行いながら、引き続き、広葉樹二次林の施業上の取扱いについて、検討を進めてまいります。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【木曾森林管理署】

開田森林事務所

森林官 土屋 幸治

開田森林事務所は、長野県西部に位置する御嶽山の北東部、



晩秋のマイアスキー場とカラマツ林

「木曾馬とそばの里」として知られる木曾町開田高原の国有林を管理しており、管内にはマイアスキー場があります。

管轄するのは西野北山・小梨ヶ洞・末川・新高の各国有林で、面積は併せて約五、二七三ヘクタ、森林の面積割合は「人工林」と「天然林」がほぼ半々となっています。

人工林の約八〇割がカラマツ林で、その九九割は植えてから三十年を超え、資源としての利用が期待できます。生長して過密となった人工林では間伐作業を行います。

当事務所の業務は、間伐作業の監督、ドローンによる境界確認、貸付地の見回りのほか、平成二十六年の御嶽山噴火に代表される自然災害の発生箇所の確認やニホンジカの森林被害防止を目的とした生息調査なども行っています。



新高国有林の治山施設



噴火10日後の御嶽山（平成26年）

なお、自然災害発生箇所では、治山工事等を行い、森林機能の回復に努めています。

■未来の担い手へのメッセージ  
カラマツを植えてから伐採するまで五十〜百年程度の時間が必要です。

当事務所のカラマツ人工林の約七〇割は、植えてから六十年ほどですが、伐採にはもう少し時間が必要です。

先輩から引き継ぎ、生長したカラマツ人工林を、私たちから引き継いでいただける「あなた」をお待ちしています。



ドローンによる境界確認中の筆者

《シリーズ「私の森語り」》

シリーズ  
「私の森語り」  
もりかた

森林・林業との関わりの中で、  
様々な課題に挑戦されている方  
の取組を紹介します。



「森林から考えるモノづくり」



株式会社オークヴィレッジ  
執行委員 長  
緑の国企業実践委員会  
森たくみ塾塾長  
小本曾賢一

■自己紹介

一九九一年、木工塾・森林たくみ塾入塾。二〇〇二年、株式会社たくみ塾に入社し、二〇二〇年、塾長を拝命。二〇一八年より、オークヴィレッジ株式会社制作部を兼任。「森と暮らしをつなげる」をテーマに、森や地方の持つ可能性を引き出すのがライフワーク。

■活動内容

「お椀から建物まで」「百年かかって育った木は、百年使えるものに」「子ども一人、ドングリ一粒」



パルプや燃料になってしまうには勿体ない宝の山

という二つの理念を事業の礎として、私たちは活動してきました。この八月にオークヴィレッジ株式会社が創業五〇周年を迎えることができましたのも、私たちの活動に共感して支えていただいた皆さまのおかげです。創業以来、私たちは国産広葉樹の活用にごこだわったモノづくりをしてきましたが、用材として市場に出るのは一割に足りません。大

半はパルプやバイオマス燃料となってしまう現状を打開しようと、この十年は、地方の林業事業者と連携した未利用材の活用に入れています。

小径木や曲がり材など規格外広葉樹の活用プロジェクト・Neo Woods（岐阜県本巣市の有限会社根尾開発、岐阜県高山市の株式会社カネモクとの協働で行っている）を皮切りに、連携協定を結ぶ群馬県みなかみ町とは、伐り出した広葉樹をほぼ全量買い取ることで、自伐林業家の経営の安定化にも寄与しています。他にも、新たな取り組みが、目下進行中です。



小径木のみなかみ材を随所に用いたMori:to（モリート）(mori+hitto) チェア

また、カーボンニュートラルの二〇二四年度達成を目指して、社有林の面積の拡大を進めています。現在一〇鈔ある社有林では、当社の会員組織である「シルヴァ

ンクラブ」の会員さんたちと社員が一緒になって森づくりの活動を行っています。「伐って使う」ステージにあるこの森の木を使っ

■メッセージ



曲がった木も、枝葉までをも余すことなく活用を目指したいものです。

森林から考えるモノづくり。その先に見据えるのは、木の文化を中心に据えた循環型社会の実現です。

百年までの折り返し地点に立つ私たちの、これからの取り組みにも、ぜひ注目してください。

○連絡先

オークヴィレッジ株式会社  
岐阜県高山市清見町牧ヶ洞

846

電話／0577-6812244

https://oakv.co.jp





# 奥美濃最高峰に広がる高齡級のブナ群落

## 能郷白山ブナ生物群集保護林

### 設定目的

能郷白山（二、六一七メートル）周辺には、ブナを主体とし、サワグルミやトチノキ、亜高山性植物が混生している高齡級の天然林が分布しています。

これらの希少な天然生のブナ群落を有する森林の保護・管理を一体的に行っています。

### 地況・林況

能郷白山は、岐阜・福井県境に跨がる奥美濃の最高峰です。当保護林は、山頂から温見峠（ぬくみとうげ）に至る稜線より岐阜県側の北東斜面、及び根尾西谷川（ねおにしたにがわ）を挟んだ南斜面に位置しており、総じて急傾斜地となっています。日本海型の気候の影響を強く受けており、岐阜県でも代表的な多雨・豪雪地帯です。

シリーズ

中部の保護林(第29回)

所在地  
岐阜県本巣市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第29回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「伊勢湾台風」その一

歴史的な大災害とされるものの中でも、昭和三十四年九月のいわゆる「伊勢湾台風」(台風十五号)は中部地方では特に大きな影響があったものとして記憶されています。特に愛知県、三重県での被害が甚大でした。激しい暴風雨に加え、台風が伊勢湾の満潮時と重なったため高潮が発生し、大きな浸水被害が発生することになりました。



名古屋営林局編集「みどり」の昭和三十四年十一月号表紙



高潮で木材が散乱した白鳥貯木場 (名古屋市熱田区)



被災した職員を尋ねて浸水地域に行く営林局救護班

当時、名古屋営林局庁舎が置かれていた名古屋市も災害の直撃を受け、通信・交通機関が満足に機能しない状況となります。

名古屋営林局では災害応急対策本部を設置し、被害状況の把握に努める情報連絡班、台風通過後に出局不能となった百人を超える職員の情報を探る救護班、破損・浸水した宿舎を手当する応急復旧班の三班からなる体

制で、災害からの復旧にねばり強く取り組むこととなりました。

また、愛知県・岐阜県・長野県内の各国有林においても大雨による営林署庁舎・宿舎・施設の破損・崩壊、林道や森林鉄道・軌道の路線の流失、土砂崩れや強風による大規模な風倒木被害が発生するなど、この伊勢湾台風の影響は後々まで続く大きなものになりました。



路体が流失した森林軌道 (現在の愛知森林管理事務所・段戸)



長野県内で発生した風倒木被害 (現在の中信森林管理署・奈良井)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。





作品名：「芸術的なハイ積みの技術、トラック運材で運ばれる僅かな間しか見ることができない、素材が有機的かつ緻密に積み上げられることでみせる、木口の織りなす模様美しい」



作品名：「ヒノキ100年、僕21年」



作品名：「林業楽しい！」



作品名：「登山道整備ボランティア」

Good Wood Workers

フォトコン作品からもっと伝えたい林業の魅力！

また、当社では日頃から作業風景を撮影し、活躍する姿を仲間や家族に見てもらったり、企業説明で使用したりしています。「林業楽しい！」は、昨年撮影した約二千枚

最優秀賞をいただいた「ヒノキ百年、僕二十一年」は、あれほどの木を入社二年目の社員に伐採させることは、まずありませんが、できると信じ、経験のために伐らせました。遠くに見える集落や春の山とのコントラストも良かったと思います。

姿を撮影した一枚です。コンテスト共催の名古屋造林素材生産事業協会の方から声をかけていただいたのが応募のきっかけなのですが、年に一度、協会の方々と国有林内でボランティア活動をしており、「登山道整備ボランティア」は、力を合わせて活動する

みなさんの

作品のことを教えてください！

昨年度の「中部の森林 林業従事者写真コンテスト(フォトコン)」において、最優秀賞と優秀賞三作品を受賞された有限会社大原林産の西社長と岡田さんに作品のことや今年度の事業について取材させていただきましたのでご紹介します。

今年度の

現場について教えてください！

の中から選びました。「芸術的なハイ積み」を見せる最年長のベテランから若手まで、安全確保を第一に、力を合わせて日々の業務に励んでいます。

現場について教えてください！高山市清見町一ツ梨国有林において、製品生産の請負事業をしています。約四千立法の立木を伐採し、搬出する計画となっており、伐採・造林一貫作業であるため、皆伐後には地拵を行います。国有林での作業は、土地所有者が国のみで、森林官の指導もあり、やりやすいです。

◆有限会社大原林産のご紹介◆「緑を守り 水を作る」を社是に一年を通じて素材生産を中心とした事業を行っています。社員六名の平均年齢は約四十歳、様々な資格を取得しています。また、随時インターンシップを受け入れるなど、林業技術の継承にも取り組んでいます。

取材協力/有限会社大原林産  
所在地/郡上市八幡町五町3-2-14  
電話/0575-67-1241

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jp まで電子メールでお送りください。)

7月22日、東京交通会館で開催された長野県最大級の移住フェア「信州で暮らす、働くフェア2023」において、フォトコン作品を展示するなど、ご活用いただきました！

また、今月号の林野庁情報誌「林野」において、フォトコンの取組と作品が紹介されます！

これからも多くの方にフォトコン作品をご覧いただき、森林、林業への関心と理解を深めていただきたいと思います！



(写真提供：長野県)



昨年10月、大原林産の作業風景を飛騨署の職員が撮影したものです。どこの現場でも木材を仕分けて美しく積み上げる作業をしていただいています。

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

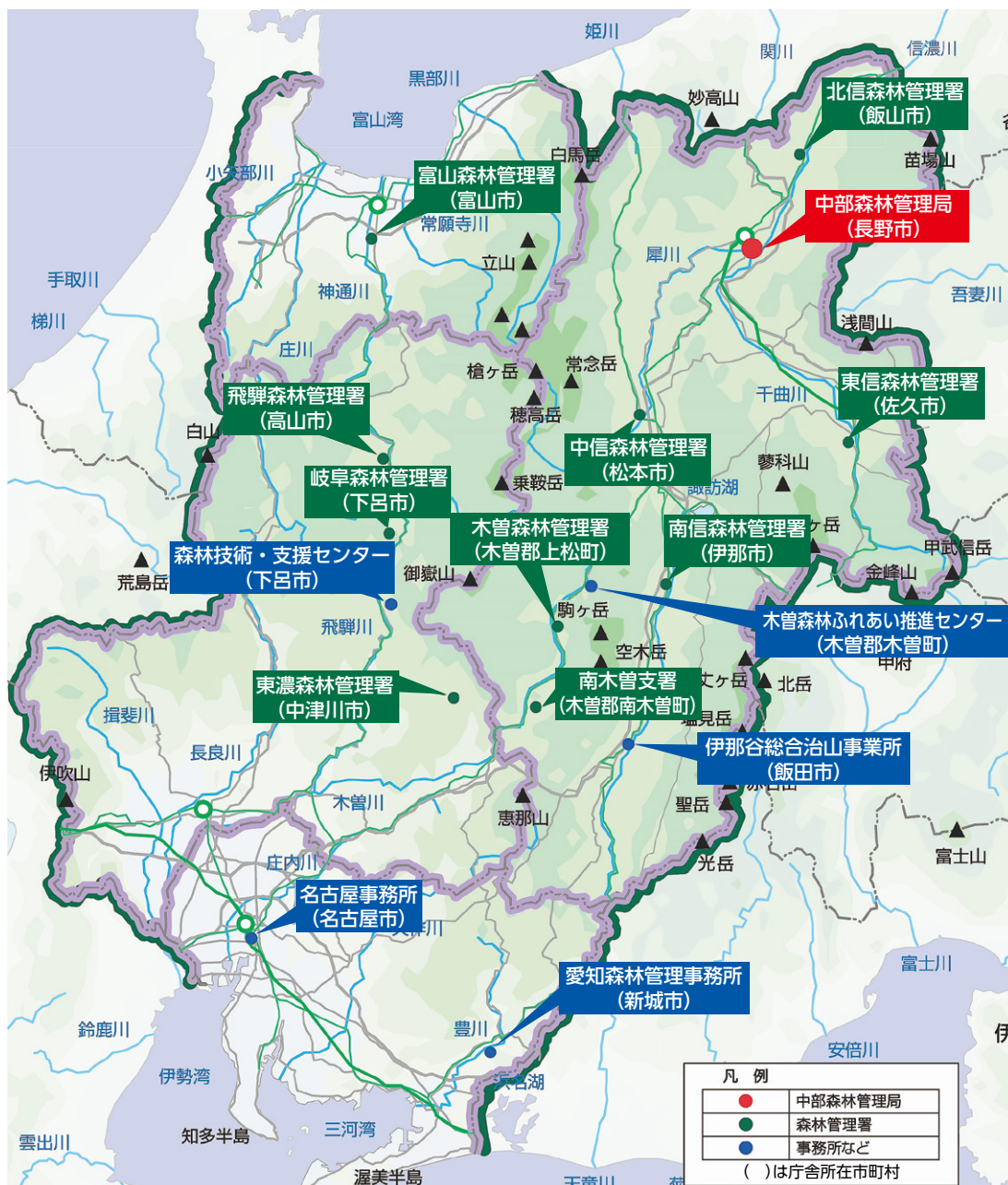


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。